



ふくおか [Good] 農業人100

主な農産物 / カンキツ、ブドウ、モモ

安部 洋一さん (39歳) (営農地 / 宗像市用山)

先祖代々築いた果樹園を受け継いでいく

《就農のきっかけ》

家族みんなで 働いて守ってきた果樹園だから

「幼い頃から、ミカンの出荷作業など、家の仕事を手伝っていました。先祖代々受け継いできた広大な果樹園で、いつも忙しく働く両親の姿を見て育ちましたので、家族みんなで働いて守っていかなければと自然に思っていました。ですから、将来は、長男である自分が継ぐんだといつの間にか考えていましたね。まったく、迷いはありませんでした。」と語る安部さん。

現在は、25年前にお父様が立ち上げた観光果樹園を経営されています。

《これまでの過程》

栽培技術は奥が深く難しいです

大学卒業後、いずれは就農するつもりだった安部さんですが、まずは外で働いてマーケティングなどの知識を身につけようと考え、園芸店に就職しました。

「園芸店では、花の仕入れや販売の担当として7年間働きました。その知識を生かし、就農2年目で経営を譲り受けた時から、パソコンでの簿記帳や顧客管理は、私が担当しています。しかし、果樹の栽培技術はまだです。栽培技術は奥が深く、剪定ひとつとっても習得するのが難しいです。父の手伝いをしながら、木の剪定や病気や虫の防除などを教わっていますが、いまだに父には及びません。今でも、父や普及指導センターに教えてもらいながらの日々で、修行中です。」と、栽培技術の習得のご苦労を語ってくださいました。



プロフィール

- 家族構成 / 父、母、本人、妻、子ども3人
- 前職 / 花屋(従業員)
- 営農年数 / 約10年
- 従業員数 / パート4名
- 耕作(経営)面積 / 5ha
- 販路 / 直売、直売所、宅配

《これからの展望》

おいしい果実を楽しんでいただくために

うちのミカン狩りは、10月上旬から12月下旬の3か月間です。ミカンの樹は、実をたくさんつける年(表年)と少ししか実をつけない年(裏年)が、1年ごとにきます。裏年には、せっかく来ていただいたお客さんに「ミカンが足りない!収穫できない!」などというご迷惑をかけないように、開園期間は、特に気を遣います。表年と裏年のミカンの収量の差を少なくすることが、わたしの一番の課題です。

今後は、もっと長い期間、お客さまに果物を提供するため、ミカンを中心にブドウやモモなども新しい品種をとり入れていきたいと考えていますし、おいしい果実を楽しんでいただくため、さらに栽培技術を磨きたいです。

また、来ていただいたお客さんに気持ち良くゆっくりと過ごしてもらえるように、駐車場やトイレなども新しく整備したいですね。



Good 成功のためのポイント

我が家は観光果樹園なので、毎年沢山のお客様にきていただきます。

今後も、おいしい果物をお客様に楽しんでいただくために、栽培技術を磨いていきます。